

【小美玉市】 校務DX計画

【現状】

小美玉市では、令和5年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの出欠情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえてもこれらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

小美玉市では、「chromebookを用いたGoogleクラウドサービスの利用」等のクラウドツールを活用した学習等が少しずつ進んでいるが、校務としては保護者との日程調整等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が進んでおらず、教職員の負担となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、業者等とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。

また、教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっていて、押印が求められている状況である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

小美玉市では、生徒の欠席・遅刻等に関して保護者から情報共有・連絡ソフトで受け付けており、教職員が別途校務支援システムへ入力している状況であり、教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から小美玉市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

校務支援アプリ等を活用し、保護者との連絡調整にかかる教職員の業務負担軽減を図る。会議で用いる資料等はWeb会議ツールなどの資料共有機能を利用することを推奨し、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

また、押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの連絡をアプリで受け付けて、管理者もアプリ上から確認でき、校務支援システムと連動する仕組みを導入することで、教職員の業務負担軽減を図る。

(4) 校務DXの更なる推進へ向けた取組

生成AIの校務での有効活用に向け、国のガイドラインに基づいた活用を推進し、県域外の好事例等の情報収集や講師を招いた研修を教職員向けに実施する。